

入学試験問題 「小論文」(その一)

記事にある現在の博物館が置かれている状況に関して、あなたはどのように考えますか。文化財に対する考え方について触れて、800字以内で意見を述べなさい。

受験番号

【課題文】

(社説) 博物館の苦境 国は当事者意識を持って

自然や人々の営みの痕跡を集めて研究や展示に生かし、次代へ引き継ぐ。そんな役割を担う博物館は、過去を起点に現在や未来の社会のありようを考える上でますます大切な社会インフラになっている。その拠点が、待ったなしの苦境に陥った。

東京・上野の国立科学博物館が今週、標本や資料を収集・保管する費用にあてるため、クラウドファンディングで寄付を募り始めた。わずか9時間で目標の1億円に達し、きのうまでに約6億円が集まっている。

たくさんの人々が博物館の現状に関心を向け、潜在していた多くの善意を掘り起こす機会となった。収入源の多様化を求められている博物館にとって、意義のある取り組みとなったのではないか。

しかし一方で、資料を集めて適切な温度や湿度で管理するというごく基本的な機能の維持が、国内最大級の博物館ですら難しくなっているという現実もあらわになった。

科博の予算の8割は国からの交付金でまかなわれている。昨年度は約25億円で、ほかに入場料や寄付による収入がある。交付金が年々削られ苦しい運営だったところ、コロナ禍で入場者が激減。さらに光熱費が4億円近くまで増えたことなどが大きな打撃になったという。

多くの文化財を抱える東京国立博物館も例外ではない。館長が今年1月、月刊誌に寄稿し「国宝を守る予算が足りない」と訴える事態となった。

こうした現場の切実さとは裏腹に、政府や政治の反応は鈍い。同館は不足分の光熱費について対応を求めたが、いまだに結果が出ない。岸田文雄首相や永岡桂子文部科学相も、人ごとのような発言に終始している。

国立の文化施設が独立行政法人になって20年あまり。日本を代表する博物館が光熱費を工面できず、寄付に頼らざるをえないという帰結を政府はいったいどう考えているのか。

大型の施設に限らず、国内各地の博物館を取り巻く環境は厳しい。6割の館で資料購入にあてる費用が全くないとの調査結果もある。収蔵庫が不足し施設は老朽化が進む。学芸員には専門性が求められるのに、非正規雇用も多い。それでも文化庁の博物館機能強化推進事業の予算は年間4億円ほどにすぎない。

入学試験問題 「小論文」(その二)

政府は博物館に観光の中心になれと旗を振るが、最低限の活動もままならないのに、なぜそれが可能なのか。目先の産業振興に膨大な額の予算をつぎ込みながら、その礎になる部分を軽視しているようでは、本末転倒としかいいようがない。国が果たすべき役割について真剣に考えてもらいたい。

朝日新聞 2023年8月12日5時00分

注意

- (1) 字数は所定の原稿用紙二枚以内。時間は六十分。
- (2) この紙の余白はメモ用紙として自由に使用してよいが、終わったら机の上に原稿用紙(小論文)と一緒に置いて、持ち帰らないこと。